



第IV章
資 料 編

資料1 上越教育大学教職カリキュラム質保証検討委員会要項

(平成28年5月11日学長裁定)

(設置)

第1条 上越教育大学に上越教育大学教職カリキュラム質保証検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、総合的な教師力向上のための調査研究事業（文部科学省委託事業）カリキュラム企画運営会議を中核としたP D C Aサイクルによる教職カリキュラムマネジメントシステムの再構築（以下「再構築事業」という。）の円滑な実施に関することを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 再構築事業の企画運営に関する事項
- (2) その他再構築事業を推進するために必要な事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）をもって組織する。

- (1) 国立大学法人上越教育大学カリキュラム企画運営会議（以下「企画運営会議」という。）議長
- (2) 企画運営会議委員若干人
- (3) 学長が指名した教員若干人
- (4) 教育支援課長
- (5) 教育委員会関係者及び学外有識者のうちから学長が指名した者若干人

(委員の委嘱及び任期)

第5条 前条第2号、第3号及び第5号に掲げる委員は、学長が委嘱する。

- 2 前項の委員の任期は、委員として委嘱された日から平成29年3月31日までとする。

(委員長等)

第6条 委員会に委員長を置き、第4条第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員会に副委員長を置き、委員長が委員のうちから指名する。

(会議の招集及び議長)

第7条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を述べさせることができる。

(事務の処理)

第9条 委員会に関する事務は、教育支援課において処理する。

(その他)

第10条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成28年5月11日から施行する。
- 2 この要項は、平成29年3月31日限り、その効力を失う。

資料2 教職カリキュラム質保証検討委員会名簿

氏名	所属	職名	備考
林 泰成		副学長	委員長 カリキュラム企画運営会議議長
瀬戸 健	学校教育学系	教授	カリキュラム企画運営会議委員
山田 智之	学校教育学系	准教授	
城間 祥子	学校教育学系	准教授	カリキュラム企画運営会議委員
野口 孝則	臨床・健康教育学系	教授	
村中 智彦	臨床・健康教育学系	准教授	
長谷川 佑介	人文・社会教育学系	講師	カリキュラム企画運営会議委員
土田 了輔	芸術・体育教育学系	教授	
石野 正彦	学校教育実践研究センター	教授	カリキュラム企画運営会議委員
細谷 敏明	教育支援課	教育支援課長	
藤本 孝昭	上越市立教育センター	教育研究部長	副委員長
長谷川 敬子	上越市立大潟町小学校	校長	
末松 裕基	東京学芸大学総合教育科学系	講師	

以上13名

資料3 ファカルティ・ディベロップメント研修会講演資料

2016/11/02 平成28年度FD研修会@上越教育大学

アクティブラーニングによる授業改善 その考え方と具体的な手法 ～医学部での実践を通じて～

愛媛大学 学長特別補佐、教育・学生支援機構 教育企画室長
医学部附属総合医学教育センター長
小林直人 KOBAYASHI, Naoto MD PhD

EHIME UNIVERSITY

アクティブラーニングによる授業改善

医学部での「実践」を 通して

EHIME UNIVERSITY

2016/07/29 第48回日本医学教育学会大会 基調講演
「医学教育のグローバルスタンダードにおける大学の独自性」

原点に還る ～医学教育者に求められること～

愛媛大学 学長特別補佐
医学部附属総合医学教育センター
小林直人

〇〇学部批判からの反省

- ・医療系学部でも、学生の「深い」学びは達成されていないのではないか？
- ・型どおりの実験になっていないか？
- ・試験「対策」(のみ)でOSCE合格？
- ・ベッドサイドで学生は考えているか？
- ・医行為の体験 vs. 臨床推論の実践

アクティブラーニングによる授業改善

教育(教員養成)学部 ではどうなのか？

EHIME UNIVERSITY

アクティブラーニングによる授業改善

医学部 vs 教育学部

- ☆ライセンスを取得する学部
- ☆地域への人材輩出が必要
- ★モデル・コア・カリキュラム
- ★グローバル・スタンダード

EHIME UNIVERSITY

アクティブラーニングによる授業改善

参考文献:

高田和生『アクティブラーニング:主体的で効果的な学習を可能にする授業とは』、日本内科学会雑誌、104(12): 2498-2507, 2015

蔣妍『大人数講義で行うアクティブラーニング』、特集「ピアの力を信じよう 学生同士で教え合うしくみの活用」、看護教育、55(5)、2014

アクティブラーニングによる授業改善

グローバル・スタンダード

医学部は、

- 学生が自分の学習過程に責任を持てるように、学習意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学習方法を採用すべきである。(B 2.1.2)

アクティブラーニングによる授業改善

医学部のアクティブラーニング

医学部では

「学生参加型授業」の導入が遅れているのか?

全国医学部長病院長会議「医師養成の質保証と改革実現のためのグランドデザイン」(2016)では、遅れが指摘されているが…)

アクティブラーニングによる授業改善

医学部のアクティブラーニング

- 臨床実習、診断学実習; 臨地実習
- 解剖実習など基礎・社会医学系実習
- 医学科の研究室配属(医科学研究)
- 基礎看護学実習、他
- 死生学演習、看護研究、他

⇒アクティブラーニングが多い学部?

アクティブラーニングによる授業改善

アクティブラーニングとは?

アクティブラーニングによる授業改善

「アクティブラーニング」とは?

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。(中教審『質的転換答申』2012.8, p.9)

* アクティブ・ラーニング(Active Learning)
伝統的な教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称(文部科学省、2007)

アクティブラーニングによる授業改善

□クリッカーなど回答数等を表示する機器
 □学生によるプレゼンテーション □輪読（読書会）
 □ペアワーク／グループワーク □ペア・リーディング
 □問答法 □ロール・プレイ □シミュレーション
 □ディベート □ディスカッション □ケース・メソッド
 □PBL (Problem/Project-Based Learning) □TBL (Team-)
 □調査 □フィールドワーク（巡見、現地調査）
 □インターンシップ □サービス・ラーニング
 □実習 □実験 □実技

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室

EHIME UNIVERSITY

アクティブラーニングによる授業改善

アクティブラーニングの問題点

- ・学生は「身体的」にはアクティブ！
- ・能力が身についているか？
- ・「頭」を使っているか？

⇒どうやって「頭」を使わせるか？
 ⇒その結果をどう評価（測定）するか？

EHIME UNIVERSITY

アクティブラーニングによる授業改善

「ディープ」と「アクティブ」は別？

Deep Learning (深い学び)
 外的活動における能動性だけでなく、
 内的活動における能動性も重視した学習

vs.

Surface Learning (浅い学び)
 「活動あって学びなし」？

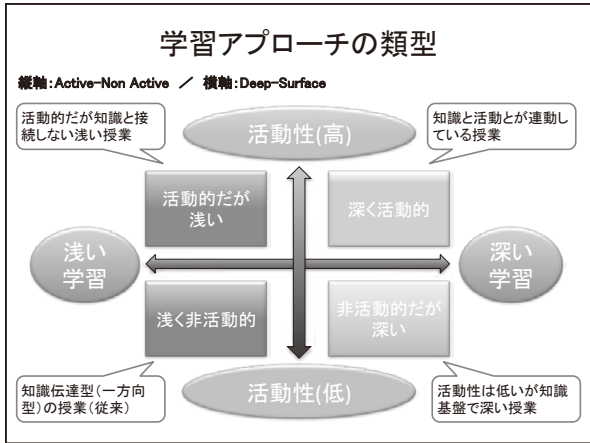
「ディープ・アクティブラーニング」、松下・編、勁草書房、2015

EHIME UNIVERSITY

深いアプローチ (意味の探求)	浅いアプローチ (再生)
<ul style="list-style-type: none"> ・目的は、主体的にその概念を理解すること ・その概念を既存の知識や経験に関連づける ・共通するパターンとその基礎にある原理を探す ・証拠をチェックし、結論と関連づける ・論理と議論を、因果的に、批判的に吟味する ・必要に応じて、暗記学習を用いる ・結果として、理解が深まるにつれ、自らの理解レベルを認識する。授業内容にもっと積極的に関心を持つようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的は、授業での要求に合わせる ・授業を知識の無関係な断片として捉える ・事実をひたすら暗記する、学んだ手続きをひたすら繰り返す ・勉強の目的も方法も検討することなく、ただ勉強する ・結果として、新しい概念を意味づけることが困難となる ・授業にも、出された課題にもほとんど価値も意義も見いだせない ・課題に対して、どうしようもないプレッシャーや不安を感じる

(Entwisle, 2009)

Entwisle, Noel (2009) Teaching for Understanding at University: Deep approaches and Distinctive Ways of Thinking. Palgrave Macmillan, エントウィルス / 山口栄一訳(2010)『学生の理解を重視する大学授業』(玉川大学出版部)



アクティブラーニングによる授業改善

具体的には、どうするか？

『発問』

- ・「問い」には力がある
- ・問われると人は考える
- ・教員が学習者に対して教育的な意図をもって問う伝統的な教育技法
- ・わかっている人がわかっていない人に問う

「アクティブラーニング」、中井・編、玉川大学出版、2015

EHIME UNIVERSITY

講義の実施例： 小林の授業資料から

講義法のFDの必要性：

- ・「何の話」なのか分からない
- ・受動的な講義をただ聞くだけ
- ・学生の「生活体験」が乏しい
- ・聞きながら考えるのが不得手

講義法のFDの必要性：

- ・目的と目標を明確にする
- ・「問い」を出して考えさせる
- ・身近な話題と関係づける
- ・結論を印象的に説明する

医学部・初年次科目「大学生としてのレポートの書き方」

- ・穴埋め
- ・記入させた後、学生を指名
- ・適宜修正しながら、まとめる

「グループで問題を解く」

- ・まずは個人で解答
(ここで解答を回収しても良い)
- ・次にグループで解答
- ・“点数”は上がっているはず！

「グループで問題を解く」

この方法を理論立てて、さらに磨きあげた授業が『TBL』です。

事前課題と自己学習 ⇒ IRAT(個人テスト)
⇒ GRAT(チームテスト) ⇒ フィードバックと応用課題

『TBL 医療人を育てるチーム基盤型学習』、瀬尾・監訳、シナジー、2009

明日からできる アクティブラーニング

いろいろなアクティブラーニング
「大掛かりな」アクティブラーニング
教育実習、臨床実習
リフレクション、事前指導・事後指導
PBL、TBL、ケーススタディ
フィールドワーク、インターンシップ
他

いろいろなアクティブラーニング
「大掛かりな」アクティブラーニング
☆大きな学習効果
☆学生の自信につながる
★コスト(マンパワー、教材、他)
★多すぎると学生も疲弊？

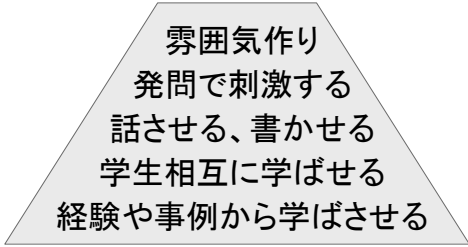
いろいろなアクティブラーニング
「大講義室で」アクティブラーニング
シンク・ペア・シェア
バズ学習(六・六法)
ラウンド・ロビン
ロール・プレイ

「アクティブラーニング」、中井・編、玉川大学出版、2015

いろいろなアクティブラーニング
「大講義室で」アクティブラーニング
シンク・ライト・ペア・シェア
ラウンド・テーブル
ミニッツ・ペーパー
当日レポート方式

「アクティブラーニング」、中井・編、玉川大学出版、2015

アクティブラーニングの「コア」



雰囲気作り
発問で刺激する
話させる、書かせる
学生相互に学ばせる
経験や事例から学ばせる

「アクティブラーニング」、中井・編、玉川大学出版、2015

アクティブラーニング の欠点とは？

落ち着いて考えてみる
アクティブラーニング型の講義
で得るものと失うもの

医学部 vs 教育学部 共通するのは？

「考える」力の養成
医師国家試験とリアルな臨床との絶対的
な違いは？（教育現場でも同じですね）
正解を一つに決めなければならない、か
正解を一つに決めることができない、か
⇒これをどう養成するか？

「考える」力の養成
まずは「問いかけ」から！
⇒発問と問答
問いを出す、答えを肯定する、
その後さらに別の答えを求め
る問いを出す、これの繰り返し。

ご質問・ご意見は： 小林直人 まで
愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室長
同 医学部総合医学教育センター長
naoto@m.ehime-u.ac.jp



資料4 ファカルティ・ディベロップメント研修会アンケート結果

平成28年度 FD研修会 アンケート

開催日 平成28年 11月2日(水)

会場 上越教育大学 2講202教室

回答者総数 36(参加者数36名)

内 訳	①教員	20
	②職員	2
	③学生	14
	④その他	0

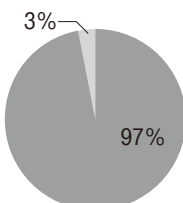
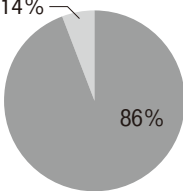
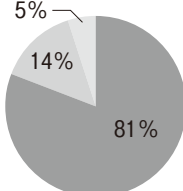
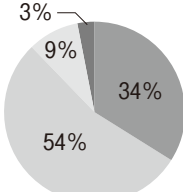
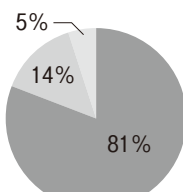
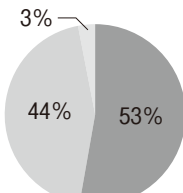
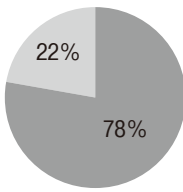
問	アンケート項目	④そう思う	③どちらか といえばそう 思う	②どちらか といえばそ う思わない	①そう思わ ない	有効回答数
1	講師の言動は学習意欲を高めた	35	1	0	0	36
2	講師の用意した教材はわかりやすかった	31	5	0	0	36
3	研修は全体的に満足できるものだった	29	5	2	0	36
4	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	12	19	3	1	35
5	研修の実施時期は適切だった	19	10	5	1	35
6	研修の対象者は適切だった	19	16	1	0	36
7	研修内容の構成等は適切だった	28	8	0	0	36

No.	受講して良かった点を、具体的に記入	職種
1	実際の講義内容の具体例が示されていて参考になった。	職員
2	FDの考え方を整理できたことはありがたかった。	教員
3	アクティブラーニングとディープラーニングの違いがわかった。	教員
4	どのような授業がアクティブなのかがわかった。	教員
5	例が具体的で、応用して実践できそうな点。	教員
6	他コースの先生の実践を聞いたこと。	教員
7	医学教育の具体例が新鮮で興味をもてた。	教員
8	内容が具体的でわかりやすかったところ。	教員
9	自らの講義へのヒントを得た。	教員
10	外国人の私には日本のことがよくわからないから、研修に参加して色々教わりました。	学生
11	刺激的なお話でした。	教員
12	教育学・学校教育学にいかにおとしていくか（活かしていくか）我々の勝負所だと思いました。	教員
13	改めてアクティブラーニングについて、理解を深めることができました。（教授の方々と話ができてよかった。）	学生
14	講師の方の話が興味深かった。	学生
15	医学と教育と違う分野での話が新鮮だった。	学生
16	アクティブラーニングの捉えが明確になった。	学生
17	大学教員の方と話し合いがよかった。	学生
18	他コースの教員や学生たちとディスカッションすることで、広い意見が交換できるのは良いと思います。	教員
19	大学の先生の側からの視点で、ALを考えることができ、大変面白かった。しかし学生の本音が入るとさらに面白くなると思いました。	学生
20	ALの授業だけを考えれば、小中学校の現場教員が何といても、大学教員より優秀である。彼らがたくさん学べるのはなぜだろうか。	教員
21	医学という全く別の分野から、求められるアクティブラーニングについて教えて頂けたことがとても学びになった。「アクティブ」の解釈についてより考えて調べてみたい。	学生

No.	受講して良かった点を、具体的に記入	職種
22	いろんな意見を聞くことができ、(医学部の授業ということ、グループでの話し合いなど) 興味深いものだった。	教員
23	他教科の話聞いて多角的に考えることができた。	教員
24	改めてアクティブラーニングが特別なことではないと思えた。	教員
25	小林先生の1時間の講義は本当にあっという間でした。新しいことをあれほど分かりやすく、端的に教えて下さる姿に感動しました。講義を経てグループディスカッションするという流れもALになっていると思いました。	学生
26	ある方法、考え方の背景・根幹、派生する気づきにふれることができたこと。	教員
27	アクティブラーニングの意見の幅の広さが自覚できた。もっと広い発想で授業にのぞみたい。	教員
28	実際にALを体験しながらALについて考えることが良かったと思います。	学生
29	素晴らしい講師にお話をいただくことができ、充実していました。また、グループ討議で他教員から具体的なアイデアをいただくことができました。	教員
30	AL、ALと先生方が行うものの中で何をねらいにして、行い、学生に何を求めているのかお話を聞いたのが良かったです。	学生
31	大学教員と学生の互いの意識を知ることができた。	学生
32	本学の多くの教員がすでに様々な工夫をしていることを知れた。医学部での実践は教育学部にも参考になります。	教員
33	分野の違うお話でどの程度理解できるかと不安であったが、小林先生のお話がとても分かりやすく頭から入ってきた。批判的にきくのが難しかった。	学生
34	アクティブラーニングについて新たな視点で見ることができ、とても勉強になりました。先生方との話し合いにより、講義の意図を知ることができ、今後の受講に対する意欲を高めることができました。	学生
35	アクティブラーニングについて、多面的な情報を得られたこと。自身の講義を振り返ることができた。	教員

No.	改善すべき点や取り上げて欲しいテーマを具体的に記入	職種
1	学生が授業に何を求めているのか、教員はそれにどう応えるか、例えば教員採用試験の対策を授業内でどこまでするのか。	教員
2	本学のいろんな先生の授業のビデオ上映。	教員
3	もっと研修会の回数を増やせるとよい。	教員
4	最後のディスカッションのテーマがもう少し絞ってあるとよかったのではないか。	教員
5	学生さんと一緒なことが、よくもあり、・・・でもありました。	教員
6	グループディスカッションの話題が少し狭まった感じがしてしまいました。	教員
7	時間の確保面。	学生
8	グループ討議での時間配分を明示する。	学生
9	学生と大学の先生の本音をぶつけ合う。(そんな場があること。それが大きな魅力になると思います。)	学生
10	授業改善に関わるテーマ。	教員
11	自分が担当している授業の受講生と(成績を出した後に)授業について、ディスカッションすること。(できないでしょうね。)	教員
12	大変学びになる内容でした。「教育と〇〇」(今回であれば「教育と医学」)のような他の分野から学ぶという姿勢は大変意義があり、続けていくべきものだと思います。	学生
13	発表者のまとめ方に最終まとめが左右される。大学教員と(将来の)現場の先生に、同じ言葉を言うとおそらく伝わるものが違う。	教員
14	もっと参加者が増えることが望ましい。	教員
15	ALのより詳しい実践方法について。	学生
16	人数バランス等、よい形になったのではと思いました。特に改善点は見当たりません。	教員
17	あと30分長くてもよかった。(小林先生のお話、ディスカッションともに)	教員
18	院生と学部生では違った感想を持っただろうから、学部生の講義に対する意見も聞いてみたいと思いました。	学生

開催日 平成28年11月2日(水)
 会場 上越教育大学 2講202教室
 回答者総数 36

No.	アンケート項目	結果
1	本研修について、講師の言動は学習意欲を高めた	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
2	本研修について、講師の用意した教材はわかりやすかった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
3	本研修について、研修は全体的に満足できるものだった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
4	本研修は、自分に必要な知識やスキルを身に付けることができた	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
5	本研修の実施時期は適切だった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
6	本研修の対象者は適切だった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
7	本研修の、研修内容の構成等は適切だった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない

資料5 ファカルティ・ディベロップメント講演会本学状況報告資料

28年度 本学における取り組み状況
FD ファカルティ・ディベロップメント
AL アクティブ・ラーニング

FD委員会

2017.2.7

28年度 FD取り組み

- *A) 授業評価アンケート
- *B) 授業公開
- *C) FD研修会

2017.2.7

*A) 授業評価アンケート

2017.2.7

授業に関するアンケート

※ 前後期 2回
※ 全ての授業科
※ 目学生 記名式

2017.2.7

平成27年度前期授業に関するアンケート結果

授業科目番号 _____ 授業科目名 _____
授業担当教員名 _____ 受講者数 11 人 回答者数 11 人

○はじめに、あなた自身の取り組みについて	はい					いいえ		無回答	平均
	5	4	3	2	1	はい	いいえ		
あなたは、この授業を受講する際に、シラバス①を確認していますか。	5	-	-	-	5	1	45.5%	9.1%	3.0
あなたは、教員になる(である)ことを意識し②て、この授業に意欲的に取り組みましたか。	8	1	1	0	0	1	72.7%	9.1%	4.7
あなたは、この授業内容を発展させるため、授業③以外の時間に努力をしましたか。	5	2	2	2	0	0	45.5%	18.2%	3.9
この授業で、この分野における新しい知識、手法④法、技能等を修得することができましたか。	8	2	1	0	0	0	72.7%	18.2%	4.6

2017.2.7

教員 自己評価レポート

(1) 各授業科目に対する自己評価

科目名	担当教員	担当教員名	1~(1)単位結果などについて	1~(2)授業の改善のための課題・対策
10541109 情報学専攻基礎	村中 晋孝		学生自身の取り組みについて、①の授業では何の種類の努力が認められたか、②については結果が平均値であるが、③は授業以外の学習も平均より多いと認識であり、④は授業中の学習態度が向上し、授業改善のために努力が認められた。⑤は、⑥は、⑦は、⑧は、⑨は、⑩は、⑪は、⑫は、⑬は、⑭は、⑮は、⑯は、⑰は、⑱は、⑲は、⑳は、㉑は、㉒は、㉓は、㉔は、㉕は、㉖は、㉗は、㉘は、㉙は、㉚は、㉛は、㉜は、㉝は、㉞は、㉟は、㊱は、㊲は、㊳は、㊴は、㊵は、㊶は、㊷は、㊸は、㊹は、㊺は、㊻は、㊼は、㊽は、㊾は、㊿は、	(1)で述べたように、①の授業では何の種類の努力が認められたか、②については結果が平均値であるが、③は授業以外の学習も平均より多いと認識であり、④は授業中の学習態度が向上し、授業改善のために努力が認められた。⑤は、⑥は、⑦は、⑧は、⑨は、⑩は、⑪は、⑫は、⑬は、⑭は、⑮は、⑯は、⑰は、⑱は、⑲は、⑳は、㉑は、㉒は、㉓は、㉔は、㉕は、㉖は、㉗は、㉘は、㉙は、㉚は、㉛は、㉜は、㉝は、㉞は、㉟は、㊱は、㊲は、㊳は、㊴は、㊵は、㊶は、㊷は、㊸は、㊹は、㊺は、㊻は、㊼は、㊽は、㊾は、㊿は、

※ 前後期 2回 全教員 1科目以上
※ 昨年のものを…授業改善につながってる？ 自己評価によるフィードバック効果？

2017.2.7

教員「授業評価」在り方 意見

(2)「学生による授業評価」の在り方等についての意見

平成27年度 前期

自由記述

受講生が選択した授業であることの大まかさを今年度も実感している。これまでと比べると、自由記述の数が大いに減り、数値のみである。これからの受講生との信頼関係を大切に、さらに改善部分も整理する授業展開に努めたい。

受講生のレポートコピーを全員に配り、子どもの姿をもとにみんなで話し合う活動をこれからも続けたい。重要授業の大切さと義務付けを自由記述にもうたいたい。

まず、アンケートは無回答とすべきである。また、こうしたアンケートの結果が本学全体の授業改善にどう活かされているのかわからない。授業内容だけでなく、カリキュラムや時間割、授業のシニアアップのあり方、授業をもつ学生への対応のあり方など、大学全体として把握すべき学生のニーズや課題がいくらかでもあるのではないか。19名授業評価や授業公開として情報にとらえるべきではないと考える。

精になり、また、記名式になってから（？）自由記述がほとんどなくなったので、授業改善の手がかりとなる情報はほとんどなくなっているように感じる。

集計システムの改善を行って、同じ授業科目については、結果配分資料に前年度の数値も併記して比較できるようにしてほしい。これは8年前から書かせていただいておりますが、困難なんでしょうか。自由に書かせるだけでなく検討結果を回答をいたさないと思います。

2017/2/7

ご意見

※ 現行システムを活用して、授業改善を図っていききたい。

※ 記名式では、本当の問題点は言いにくいのではないか。

※ 記名式になってから自由記述が少なく...

2017/2/7

- ※ 学生がアンケートに真面目に取り組んでいるのか疑問。
- ※ 結果が遅すぎて、PDCAに反映しにくい紙媒体ではなく、Web活用やオンライン入力が良い。
- ※ ALによる授業にも対応できる評価が必要。

2017/2/7

27年度 学部・院生 自由記述

The screenshot shows a spreadsheet with columns for faculty/department, student ID, and free text comments. The comments are handwritten and discuss various aspects of the course, such as the pace of the lecture, the quality of the materials, and the effectiveness of the learning activities.

2017/2/7

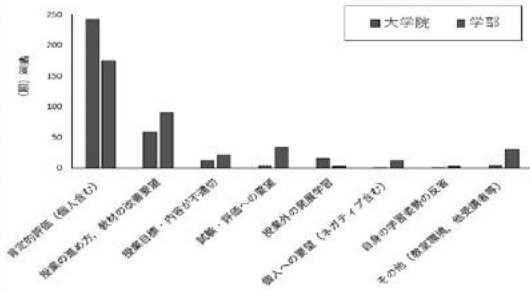


Fig. 学生の自由記述 27年度前期

- ※ 授業改善の要望 大学院<学部
- ※ 大人数・大教室 オムニバス △
- ※ 実習 演習 実験等 グループ討議 ○
- ※ 記名式への意見 ゼロ

2017/2/7

*B) 授業公開

2017/2/7

平成28年度授業公開実施要項

*** 前後期 2回**
*** 原則 全科目**

授業公開中

1 目的
継続的な授業公開を通して、日間的な授業公開に取組むことによる授業改善に資する。

2 方法
(1) 授業公開要項に実施される授業は、セミナー及び演習・実習科目並びに講義科目を対象とする。選別して行う公開とする。
(2) 各コース（専攻）では、教職員に授業公開に参画することを求め、同等を授業改善につなげる。
(3) 公開される授業は、すべての教職員、学生及び卒後の履修教員が参画する。
(4) 参観者は、感想等を所定のコメント用紙に記入し、報告書提出時に提出する。
(5) 所定評価により、まとめた結果や授業改善の内容は、FD研修会等へ、全学的な見直しから授業改善を行い授業改善に資する。

3 授業公開期間
(1) 前期 平成28年 6月 15日（月）～平成28年 8月17日（金）
(2) 後期 平成28年11月 7日（月）～平成28年11月18日（金）

平成28年度前期授業公開コメント

*** コメント少ない**
*** ネガティブ コメントは...**

コメント項目
①この授業における内容と方法について、お考えに
②この授業における学生の様子・態度について、お
③その他、お気づきになりましたことがありましたら、

前期授業公開 提出11件

授業科目名: [] 指導法 [] 提出者: 教職員

①「大講義で、大人気取りに大変だと思いました。」
②「学生はほとんど熱心に耳を傾けていました。」
③「3階のフロアは暗いので、見学しやすかったです。」

授業科目名: [] 指導法 [] 提出者: 教職員

①「評価について、プリントを使って学生を飽きさせないように工夫して授業をおこなっていた。」
②「廊下と相違したが一歩階高のワークシートを解いていた。」
③「新しい教室で、長年に亘り撮影している状態で満腹で、狭く感じた。もうちょっと余裕のある教室が必要なのではないでしょうか。」

***C) FD研修会**

平成28年度ファカルティ・ディベロップメント研修会

日時: 平成28年11月2日(水) 13:30-16:00
会場: 第2講義棟 202講義室

＜第一部＞講演 (50分)
テーマ「アクティブラーニングによる授業改善、その考え方や具体的な手法」
講師: 小林 真人 次長 (愛媛大学 学長特別顧問、教育・学生支援機構・副構長、教育企画部長、学芸部研究助教)

＜第二部＞グループ討議 (40分)
テーマ「アクティブラーニングによる授業改善、その考え方や具体的な手法」
【討議の趣旨】
・各自担当授業を一つ（以上）取り上げ、現在行っていることや、どんな小さなことでも可、AIとして十分で、今後どのように取り入れ、広めていけるか
・実態上の課題、不安点等
・学生として、私を盛り入れた授業の効果を感じ、AIを奨励する上で、TA・TSの役割は何か
・現行しているこの教職員への意識「こんな学習」

＜第三部＞全体会 (40分)
・各グループで話し合った内容を教員に紹介し、全体で

*** 専門研修 2時間半**
*** FD委員等**
*** 学生 TA TS RA**
*** 計44名**

①講演 50分
②グループ討議 40分
③講評・質疑 40分

平成28年度 FD研修会 アンケート結果

開催日 平成28年 11月2日(水)
会場 上越教育大学 2講義棟202教室
回答者総数 36 (参加者数44名)

1. 参加者のご自身について

①教員	20
②職員	2
③学生	14
④その他	

(2) 職階(上記において①または②と回答した方のみ)

①教員		①理事	0
①管理職	1	②管理職	1
②教授・准教授	17	③理事・管理職以外	1
③講師・助教・助手・准	2		
④非常勤講師			

2. この研修について

No.	アンケート項目	④どちらかといえばそう思う	②どちらかといえばそう思わない	①そう思わない	有効回答数
1	講師の言動は学習意欲を高めた	35	1		36
2	講師の用意した教材はわかりやすかった	31	5		36

AL 取り組み

- *A)教室の環境整備
- *B)総合的な教師力向上のための調査研究事業
- *C)AL現状についてのアンケート調査

2017/2/7

*A)教室の環境整備



- * POTATOポテト
- * A Place of Talking and Thinking Openly 開かれた対話と思考をはぐくむ場

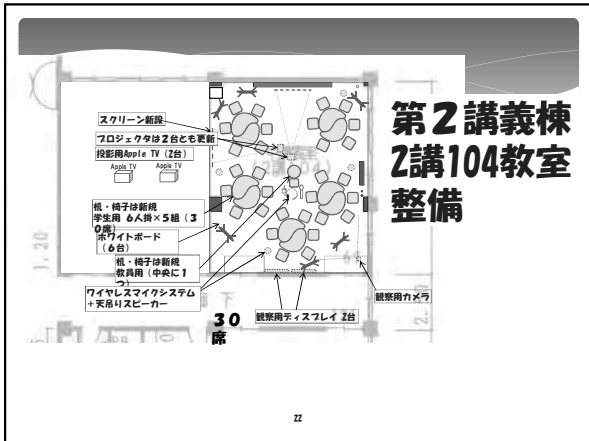
2017/2/7

第2講義棟103、104教室等の環境整備について

種別	名称等	研修人数	研修の形態	担当教員等	備考
第2講義棟	103	30人	グループワーク形式 (講義前)、または講義形式 (15分前、後半15分前) (授業中)	担当教員	研修1のとりかた
	104	30人	グループワーク形式 (30分前) (30分前)	担当教員	研修2のとりかた
附属図書館	103	30人	グループワーク形式 (15分前、後半15分前) (授業中)	担当教員	研修1のとりかた
	104	30人	グループワーク形式 (30分前) (30分前)	担当教員	研修2のとりかた

1. 講義準備について
研修1: 講義準備の徹底 (担当教員がタイムスケジュールを把握し、研修1の準備を進める)
2. ALV環境、グループワークの活用について
研修2: ALV環境の活用 (研修1の準備を進め、ALV環境の活用を進める)
3. その他
研修3: ALV環境の活用 (研修1の準備を進め、ALV環境の活用を進める)

* 第2講義棟
* 附属図書館



22



- * 使ってる?
- * 使いやすい?

2017/2/7

本学 図書館 周り



2017/2/7

***B)総合的な教師力向上のための調査研究事業**

2017/2/7

総合的な教師力向上のための調査研究事業（資力証）事業実施状況

日程	内容
5月～	◎ 学外委員委嘱
5月12日	◎ 第1回教職カリキュラム評価検討委員会
(火) 5月	◎ 第2回教職カリキュラム評価検討委員会
7日(火)	・ 事業の実行計画を策定 ・ 評価委員会委員の過去3年間の実務による授業評価結果の分析・考察
6月～	◎ 訪問調査や有識者の懇話による聞き取り調査【学内委員により実施。訪問先情報】 ・ 調査先校名： 東京学芸大学 (東京都) 【村中委員】 三川大学 () 【山田委員】 教育革新ICT実践大会 () 【 】 東京新教員研修センター () 【 】 専攻大学 () 【土田委員、横岡委員】 宇都宮大学 (栃木県) 【石野委員】 千葉大学 (千葉県) 【村中委員、横岡委員】

*** AL先進大学訪問調査**

2017/2/7

アクティブラーニング等の実態調査についてのレポート

(1) 視察の概要

- 日程：平成28年2月15日
- 訪問先：東京大学、産業能率大学
- 視察者：山田智之（学校教育学系）、長谷川佑介（人文・社会教育学系）、渡邊茂康（教育支援課）
- 目的：

第3 期中期目標・中期計画等にアクティブラーニングの導入を掲げていることに関連して、アクティブラーニングを主体的に実施している高等教育機関の実態を把握することで、本学における今後の教育課程の取り組みに活かすことを目的とする。

(2) 東京大学におけるアクティブラーニングの実情

東京大学には拡張型アクティブラーニングスタジオ（KALS）と呼ばれるICT支援型の協働学習教室があり、東京大学が掲げる理想の教養教育を実現するための授業が実践されている。KALSはディスカッショングループワーク、あるいはデスクトップ実験やメディア制作活動などのアクティブラーニングに計

2017/2/7



2017/2/7



2017/2/7

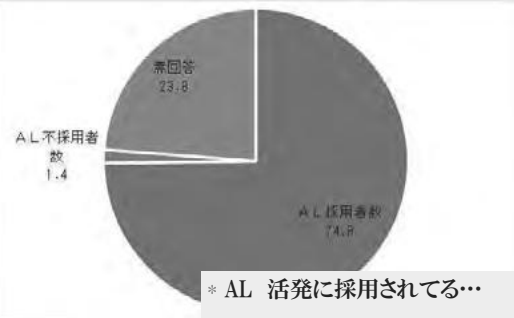


2017/2/7

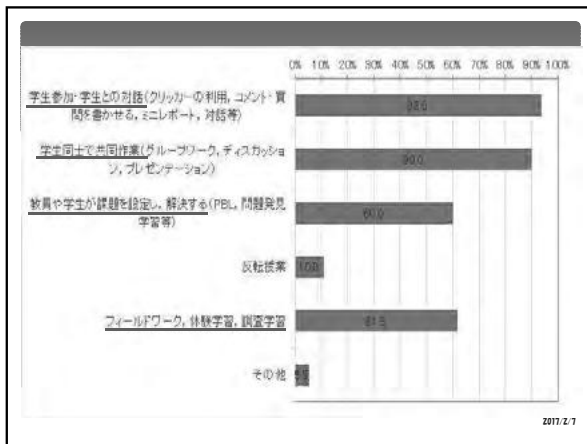
AL現状についてのアンケート調査

- *平成28年7月 実施
- *対象 27年度 授業担当教員
- *回収状況 配付数 147人
回答者数 112人
回収率 76.2%

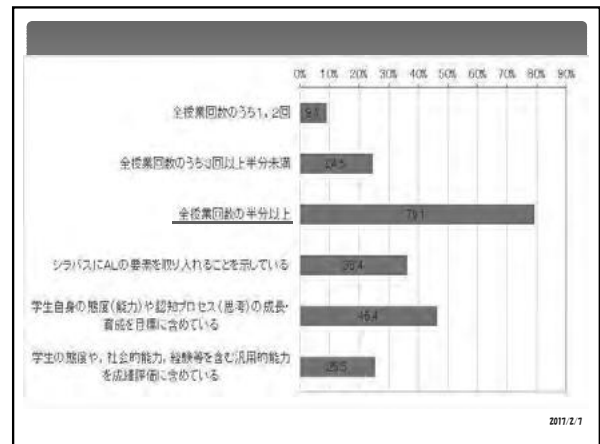
2017/2/7



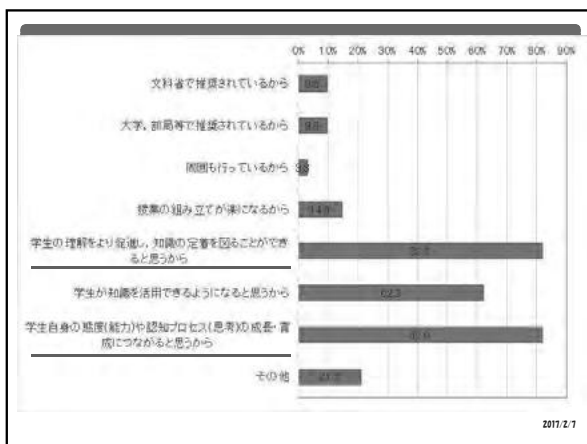
2017/2/7



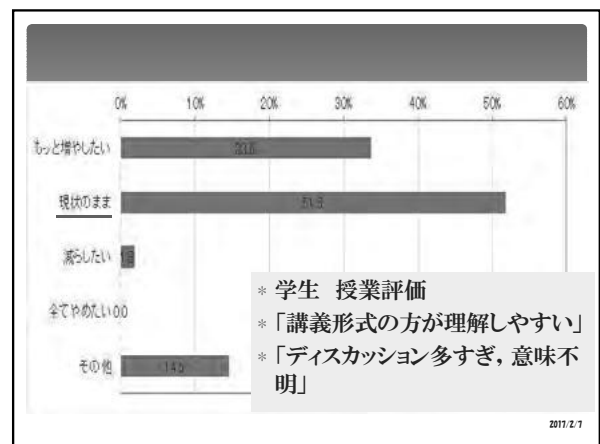
2017/2/7



2017/2/7



2017/2/7



2017/2/7

資料6 ファカルティ・ディベロップメント講演会講演資料

上越教育大学
平成28年度ファカルティ・ディベロップメント講演会
2017.2.22

学びを深めるアクティブ・ラーニング
—初等中等教育での取り組みの成果と課題—

松下 佳代
京都大学・高等教育研究開発推進センター
matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp

OUTLINE

- アクティブ・ラーニングの背景
- ディープ・アクティブラーニングとは
- ディープ・アクティブラーニングの実践例 I
—授業レベルで—
- ディープ・アクティブラーニングの実践例 II
—学校単位で—
- 学びを深めるために
- まとめ

アクティブ・ラーニングの背景

「アクティブ・ラーニング」ブーム

2004.1 2012.8 2014.12 2016.8

(出典) Google Trends

「アクティブ・ラーニング」はなくなる？

- 次期学習指導要領(案)から言葉が消えた
 - カタカナだから、ではない
- 焦点が絞られただけ
 - ブームは沈静化？
 - でも、大きな流れは変わらない

⇒ なぜか？

朝日新聞(2017年2月15日朝刊)

背後にある社会の変化

- 現代社会(ポスト近代社会、後期近代社会)
 - グローバル化(↔国民国家への揺り戻し)
 - 情報化(「第4次産業革命」)
 - 流動化
 - 人口減少社会(日本)
 - “VUCA”

(http://www.beritz-globalblog.com/vuca#anchor7)

「東ロボ」プロジェクトから見てきたこと

- AIプロジェクト「ロボットは東大に入れるか」(新井, 2014)
 - 2016年: 高校生上位2割程度。but東大合格は断念
 - 東ロボくんは、意味を理解していない
 - むしろ、人間の方がAIと同じような学習をしてきた

「東ロボ」プロジェクトから見てきたこと

- AIプロジェクト「ロボットは東大に入れるか」(2011年～)
 - 2016年: 高校生上位2割程度。but東大合格は断念
 - 東ロボくんは、意味を理解していない
 - むしろ、人間の方がAIと同じような学習をしてきた
- AI時代に必要な教育とは？
 - 意味を深く理解し
 - 自らの実体験に基づいて
 - 論理的、想像的に推論できる力を伸ばす

これまでも私たちが大事にしてきたこと
その重要性を再認識しよう

ディープ・アクティブラーニングとは



(松下他, 2015.1)

「アクティブ」だけでよいのか？

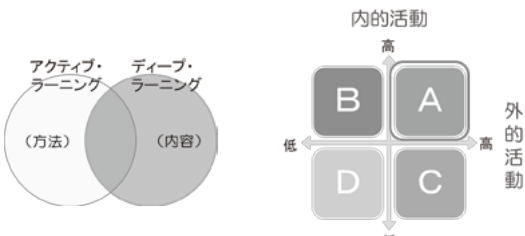
- 「アクティブ・ラーニング」への違和感
 - 大学では、2012年の中教審「質的転換答申」から
 - 「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」として
 - グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどの授業形態に焦点
- 「活動あって学びなし」
 - ある大学での意見から
 - 「授業はわっと盛り上がった。でも、それは果たして学生が深いところまで内容を理解して盛り上がっていたのかどうか分からない」[学生]
 - 「活動的に見えても実は深く考えてない授業もあり、教育の質という面ではディープに学べるような理論や仕掛けがある授業が良い授業といえるかもしれない」[教職員]
- 深さへの着目

「深さ」に目を向けよう

- 「深さ」を追求する学習論の系譜
 - ① 深い学習 (deep learning, deep approach to learning)
 - ② 深い理解 (deep understanding)
 - カリキュラム論
 - 学習科学
 - ③ 深い関与 (deep engagement)
 - 協働(協同)学習
 - 探究学習 (e.g. messing about in science 科学と戯れる)

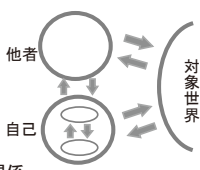
「ディープ・アクティブラーニング」の提案

- アクティブであると同時にディープでもあること
- 外的活動だけでなく、内的活動でもアクティブであること



「ディープ・アクティブラーニング」とは？

＝生徒・学生が他者と関わりながら、対象世界を深く学び、自分のこれまでの知識や経験と結びつけると同時にこれからの人生につなげていけるような学習



- 学びの三位一体論 (佐藤, 1995)
 - 学びとは、学習者と対象世界との関係、学習者と他者との関係、学習者と彼/彼女自身(自己)との関係、という3つの関係を編み直すこと

学びの3つの軸とディープ・アクティブラーニング

- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」
 - 対象世界との関係
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」
 - 他者との関係
- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」
 - 自己との関係

◎ディープ・アクティブラーニングでは、「深い学び」を主軸に、「対話的な学び」や「主体的な学び」の実現もめざす

「深さ」の系譜① ー深い学習ー

- 学習へのアプローチ (Marton & Säljö, 1976)
 - 深いアプローチ**
 - 意図: 概念を自分で理解すること
 - 人間ならではの学び
 - 概念を既有的な知識や経験に関連づける
 - 共通するパターンや根底にある原理を探す
 - 証拠をチェックし、結論と関係づける
 - 論理と議論を、周到かつ批判的に吟味する
 - 必要なら、暗記学習を用いる
 - 浅いアプローチ**
 - 意図: 授業で求められることをこなすこと
 - 再生産すること
 - AI的学び
 - 授業を、互いに無関係な知識の断片としてとらえる
 - 事実をひたすら暗記する、決まった手続きをひたすら繰り返す
 - 目的もストラテジーも検討することなく勉強する

(Entwistle, 2009)

深さの系譜② ー深い理解ー

- 知の構造
 - 【単元】第二次世界大戦(アメリカ史)
 - 内容知 (例: ヒトラーの台詞) / 個別のスキル (例: 年表の作成)
 - 方法知 (例: 戦争における手段と目的(e.g. 原爆)) / 複雑なプロセス (例: 歴史的な探究)
 - 原理と一般化 (例: 戦争の中には「正義の」戦争と主張されるものがある)
- 永続的理解 ← 本質的な問い ← 核となる課題
- 深さの軸

(McTighe & Wiggins, 2004)

●「深い理解」の特徴


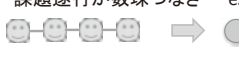

- ①シナジー的思考
 - 事実だけでも概念・原理だけでもなく、両者の間を上ったり下りたりしながら結びつけることが、深い理解には必要である
- ②知識とスキルの転移
 - 知識は概念や一般化・原理のようなレベルでのみ転移する
- ③意味の社会的構成(協働性)
 - このような思考は学習者にとってチャレンジングな課題だからこそ、協働性が要になる

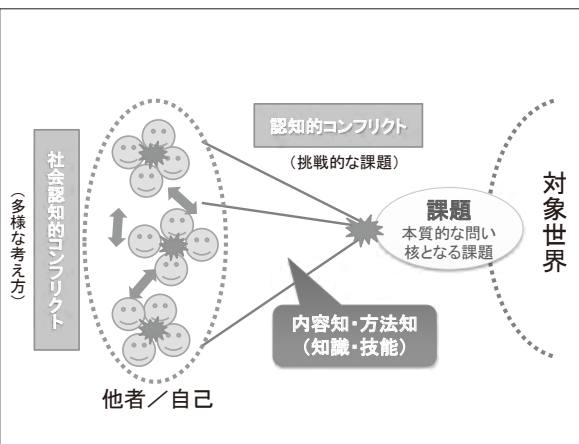
(Erickson, 2012)

深さの系譜③ ー深い関与ー

- 深い関与
 - =没頭、専念、ひたる…
- 「関与」の視点
 - クラスという集団全体で何が起きているかではなく、二人ひとりの子どもが学習活動にどう関わっているか
 - 内的活動と外的活動の両面で
 - グループワーク(ペアワーク)への関与のしかたは、課題の性質によって決まってくる

●グループワークへの関与のしかた

- 分離的課題: 一人でも遂行可能 e.g. 文学作品の読み
 
- 連結的課題: 課題遂行が数珠つなぎ e.g. グループ登山
 
- 協業的課題: 個々の生徒の役割が明確で、相互に依存 e.g. 知識構成型ジグソー法
 
- 自由裁量課題: 役割やその分担は生徒まかせ
 - 主体性を育てる場合も、フリーライダーを誘発する場合も



ディープ・アクティブラーニングの実践例 I ー授業レベルでー

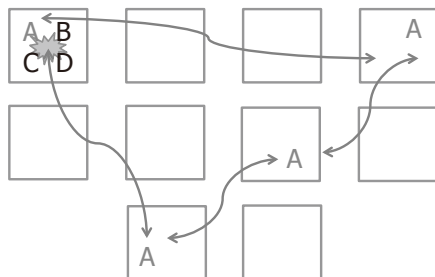
～鳥取県立八頭高校での実践から～ 古典B「平安時代の歌物語」(高2)

- 高校古典『八頭物語』～和歌から歌物語へ～(2016年)
 - 鳥取県立八頭高校、荻原伸教諭
 - ねらい
 - 平安時代の文章は和歌の力によって緩られているという文学研究の成果にもとづいて
 - 既習の「伊勢物語」を教材にし、「古今和歌集」の和歌から発想を膨らませて「歌物語」を書くという平安文学の作者を追体験することを試みる
 - 単元計画
 - 第1時 「伊勢物語」と「古今和歌集」の詞書きを比較分析する
 - 第2時 与えられた和歌についての歌物語を創作する (計4時間)

八頭物語

分離的課題・協業的課題

●個人↔班/↔同じ歌を共有する仲間



- 学習活動の流れ
 - ①「伊勢物語」第5段と「古今和歌集」632の歌を比較し、分析する。
 - ②一人一人が自分に与えられた和歌(「古今和歌集」より)を解釈する。(10首)
 - ③和歌に映し出された「人間関係」「場所・状況」「物語と和歌をむすびつけるアイテム(固有名詞など)」を取りだす。
 - ④③をもとにして歌物語をつくる。
 - ⑤できあがった自分の歌物語を、他のメンバーに開示し共有する。
 - ⑥自分の解釈と友達への解釈の違いを読み味わう。
 - 【集団様式】
 - 個人→班(4人)→クラス
 - 個人(班内は全員別の歌)
 - 個人
 - 個人
 - 個人↔班
 - 個人↔クラス・専門家
- 教室外のコミュニティ

● 生徒のつくった歌物語(作品)



● この単元での知の構造

【単元】八頭物語

事実的知識	個別的スキル
(例) ・古文の単語や文法の知識	(例) ・古語辞典を使って単語の意味を理解する
転移可能な概念	複雑なプロセス
(例) ・寄物陳思の構造	(例) ・和歌の解釈をつくる ・現代文を古文に翻訳する
原理と一般化	
(例) ・平安時代の文章は和歌の力によって囿られている ・作品は、読者とコンテクストとの関係の中に成立する(「作者の死」) ・物語るとは脈絡のない断片と断片に脈絡をつけて整序すること	

● 生徒たちの感想

- 「自分で物語りをつくるということが新鮮で、楽しく和歌を学ぶことができた。同じ和歌でも人によって解釈のイメージは違い、それを共有して理解することができた」
- 「歌だけを手がかりにして情景に思いを馳せ想像力を膨らませた。物語をつくることによってその和歌にはまっていく感じを味わうことができた」
- 「古語を現代語に訳すのはテストなどでさんざんやったからある程度自信があったけど、物語をつくって、それを古文にするのは初めてだったので、自分に単語力が足りないことや、文法がうろ覚えであることなどに気づけてよかったです。和歌の訳を頑張りました」
- 「歌をつなげることで物語が生まれるのだと実感できました」

● 教師の授業観(「八頭物語」あとがきより)

- 「和歌と対話し、他者と対話し、これまでやこれからのじぶんじんと対話しながら、深い読みや深い学びは、今回のようにまれる／みんなであみだすものなのだとほくは思います。」

ディープ・アクティブラーニングの実践例Ⅱ —学校単位で—

高槻中・高での試み

- 関西の中高一貫進学校(2017年度から男女共学)
 - SSH(2014年度～)、SGH(2016年度～)
 - しかし、普通の授業は、チョーク&トークの先生が少なくなかった
- 教師の側のALへの抵抗感
 - 入試に備えるには、大量の知識をしっかりと教え込まねばならない
 - ALなんか取り入れると時間が足りなくなってしまう

進学校ならではの難しさ
(それぞれの学校にそれぞれの難しさがある)

- <ディープ・ラーニング
→ディープ・アクティブラーニング>という戦略
＝まずは内容の見直し、それから方法

- 「深い理解」や「推論能力」の必要性は、講義型授業でもAL型授業でも共通
- 「本質的な問い」や「核となる課題」を通じて、転移可能な(応用のきく、適用範囲の広い)概念・原理を身につける
- ペア・グループ・クラス全体での協働(学び合い)を通じて、概念・原理の理解を多面的に深める

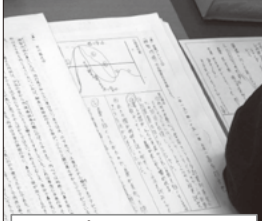
研究課題の設定と研修

- 研究課題
「知と能力を育むディープ・アクティブラーニング」
- 中教審の学習指導要領改訂作業と並行する形に
 - 「主体的・対話的で深い学び」
- AL推進チーム研修・全体研修
 - 「ディープ・アクティブラーニング」の理論の学習
 - 授業公開・検討会
 - 「本質的な問い」「永続的な理解」づくり
 - 学習・指導案のフォーマットの作成
 - カリキュラム・マネジメントについての学習(岐阜大学・田村知子氏)
 - 先進校の見学、情報収集

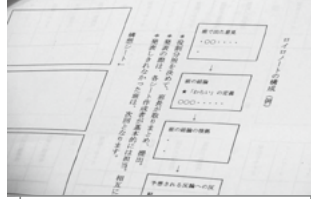
- 松本匡平先生(中1国語)のクラスのパイロットスタディ
 - 「生徒たちが学び合いを通じてどのように理解を深めているのか」の分析(森・松本・松下, 2016)
 - ①「本質的な問い(につながる発問)」についてグループワーク
 - ②単元学習の展開: 学んだ概念・技法を、別の教材で活用
【例】向田邦子「字のない葉書」(教科書教材)＋「父の紙風船」(自主教材)
 - ③テクノロジー、ワークシートの利用: 協働学習を促進
 - ④<授業外学習>と<授業での学習>の組み合わせ

● 国語 中1「鼻」(芥川龍之介)

- 課題「『鼻』は笑える作品か」
→(次時)各自の「鼻」論を構築



予習プリント(個人学習)



課題: 役割分担を決めて、班長が取りまとめる(協業的課題)



ロイロノートで、グループの意見のカードをつなぐ(協業的課題)



グループの意見を発表し、先生からのコメントをもらう



グループの発表に対して、ピア評価する

公立中・高でも可能か?

● 高槻: 私立進学校だからできた実践?

- ① 授業外学習(個人学習)が成立
- ② 中1は全員iPad、ロイロノートで協働作業を促進

● 公立でも可能

- ① 私自身の生徒としての経験(公立中)
 - 中学校での国語の授業
 - 授業外: 先生の自作プリントで、事前学習(個人学習)
 - 授業: さらに発展的な問いを、班→クラス全体でディスカッション
- ② 別のツール
 - ホワイトボードやKP(紙芝居プレゼンテーション)を使って

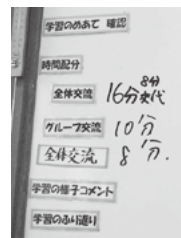


主体的・対話的であれば深くなるか?

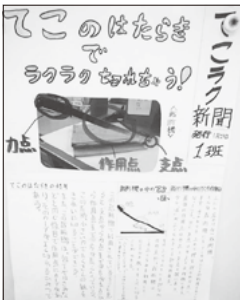
—2つの小6授業の比較から—

【例1】小6理科「てこのはたらき」(2017)

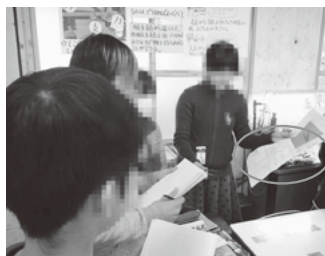
- 単元目標「てこの仕組みや働きを調べ、てこの規則性について推論する能力を育てるとともに、てこの規則性についての考えをもつことができるようにする」



学びを深めるために



←てこを使った道具について調べて作った新聞(前時まで)

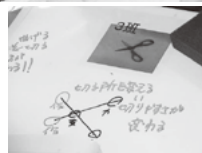


協業的課題

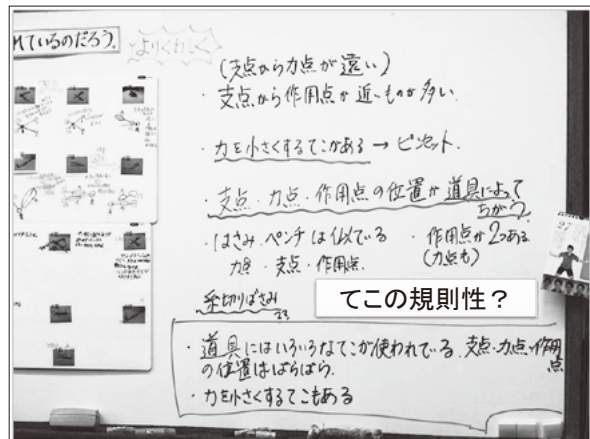
4人班の2人は残って説明。あとの2人は他の班に聞きに行く(×2回)



他の班からの情報も入れて、8つのてこの道具の特徴をまとめる
(裁断機、ハール、ペンチ、はさみ、栓抜き、穴開けパンチ、糸切りばさみ、ピンセット)



8つの班のまとめを交流



● 学びの深まり

- 自分たちの班の道具におけるこの働き **グループ内**
- 8つの道具におけるこの働き **グループ間**
- 道具にはいろいろなてこが使われている **ジグソー法**
- 支点・力点・作用点の位置はバラバラ **ワールドカフェ**
- 力を小さくすることも **クラス全体**
- 支点と力点の距離 × 力A = 支点と作用点の距離 × 力B **個**

ふり返し
てこの規則性

【例2】小6算数「平均」(2005) ビデオ

的当てゲームをしました。(Aさんは4回目まで投げたところで、用事があって抜けました。Bさんは7回目まで投げました。2人の得点は下の表のようになりました。)
どっちが得意?

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
A	8	10	2	8	—	—	—
B	10	10	5	0	3	7	0

(寺岸, 2008; 松下, 2007)

● 学びの深まり **自由裁量課題**

- Aさんは途中まででやめている。どうすればいいかわからない。
- 棒グラフにするとガタガタになる。均すにはどうすればいいだろう? **クラス全体で対話**
- ミカン狩りに行ったときに、取った数がバラバラだったら、いったん全部箱に入れて、人数で割って、同じ数ずつに分けたい **ペアで相互説明**

- 時間設定なし、役割分担なし
 - 時間を忘れて没頭(深い関与)、<私-あなた>関係
- 対話の中でのわかり直し
 - 「途中でしかわからない」と言っていた子どもの発言から、問題解決の糸口が得られる
 - 逆に、「わかっている」と思って自ら前に立った子どもが、他の子どもの質問にきちんと答えられず、表面的な理解にとどまっていたことに気づく

外的対話と内的対話

【考えてみたい点】

- ストップウォッチ(時間設定)と役割分担(関係設定)の功罪
- 「主体的・対話的な学び」と「深い学び」の結びつけ方

まとめ

まとめ

- 社会の変化に対する新しい「資質・能力」を育成するための方法として、アクティブ・ラーニングが推進されている。
- アクティブ・ラーニングが「学習者の学習への能動的な参加」を重視するのに対して、ディープ・ラーニングは「学習の内容や質の深さ」を重視する。
- アクティブであるだけでなく、ディープ（深い学習、深い理解、深い関与）であることも必要。特にAIの時代には。
- ディープ・アクティブラーニングは、アクティブ・ラーニングとディープ・ラーニングを結びつけた考え方。「生徒・学生が他者と関わりながら、対象世界を深く学び、これまでの知識や経験と結びつけると同時に、これからの自分の人生につなげていけるような学習」を意味する。

- 主体的な学び、対話的な学び、深い学びには、いろいろな形があるし、必ずしもこの3つが同時に成立するとは限らない。（例えば、主体的・対話的に見えても、深くない学びはある。）
- アクティブ・ラーニング型授業が普及するなかで、ある型が生まれつつある。それが深い学びにつながっているかどうかをみる視点が必要。

文献

- 新井紀子 (2014). 『ロボットは東大に入れるか』イースト・プレス.
- 中央教育審議会 (2016). 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」.
- Entwistle, N. (2009). *Teaching for understanding at university: Deep approaches and distinctive ways of thinking*. New York: Palgrave Macmillan. N. エントウイスル(2010) 『学生の理解を重視する大学授業』(山口栄一訳) 玉川大学出版部.
- Erickson, H. L. (2012). *Concept-based teaching and learning*. International Baccalaureate Organization.
- 松下佳代 (2007). 「非IRE型の教室会話における教師の役割—エンパワメントとしての授業—」グループ・ディダクティカ(編) 『学びのための教師論』勁草書房, 193-220.
- 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編 (2015). 『ディープ・アクティブラーニング—大学授業を深化させるために—』勁草書房.
- McTighe, J., & Wiggins, G. (2004). *Understanding by design: Professional development workbook*. Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development.
- 溝上慎一 (2014). 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂.
- 森朋子・松本匡平・松下佳代 (2016). 「深い理解に向けた協働学習のデザイン—中学校の国語授業を事例として—」日本教育工学会第32回全国大会、大阪大学.
- 佐藤学 (1995). 「学びの対話的実践へ」佐伯胖・藤田英典・佐藤学(編) 『学びへの誘い(シリーズ 学びと文化①)』東京大学出版会.
- 寺岸和光 (2008). 『「かかわりの力」で学級が変わる—対話する学びが育てるもの—』三学出版.

資料7 ファカルティ・ディベロップメント講演会アンケート結果

平成28年度 FD講演会 アンケート

開催日 平成29年 2月22日(水)

会場 上越教育大学 講義棟301教室

回答者総数 102(参加者数144名)

内 訳	①教員	52
	②職員	3
	③学生	46
	④その他	1

問	アンケート項目	④そう思う	③どちらか といえばそう 思う	②どちらか といえばそ う思わない	①そう思わ ない	有効回答数
1	講師の言動は学習意欲を高めた	74	25	3	0	102
2	講師の用意した教材はわかりやすかった	65	36	1	0	102
3	研修は全体的に満足できるものだった	30	59	13	0	102
4	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	43	39	16	4	102
5	研修の実施時期は適切だった	57	39	5	0	101
6	研修の対象者は適切だった	57	40	4	1	102
7	研修内容の構成等は適切だった	60	37	5	0	102

No.	受講して良かった点を、具体的に記入	職種
1	大学教員向けという講演でしたが、我々学生（院生）にとっても大変参考になる内容だった。個人的にはグループワークの課題の中で自由裁量課題に焦点化した授業に取り組んでいきたい。	学生
2	多量の資料の提示は参考になりました。	教員
3	実践をふまえ、これからの話もしていただけてよかったです。ありがとうございました。	学生
4	私が考える授業観だけではなく新たな「深い」という学びの視点を得ることができたと思いました。特に八頭物語の実践例から自分の教材研究で活用していきたいです。	学生
5	ディープ・アクティブラーニングを実践例や、具体的な単元の内容で知る、考える事ができて良かったです。	学生
6	学生なのですが、自分も早く先生になって、ALなどを取り入れた授業をしたいと思いました。	学生
7	昨年の授業で松下さんのディープ・アクティブ・ラーニングを取り上げさせていただいて、今日生の講義を聞くことができとてもよかったです。まだ、授業をする立場ではありませんが、より実践的で自分が教壇に立ったときのアイデアが湧きました。ありがとうございました。	学生
8	アクティブ・ラーニングの背景などについて分かったことも良かったが、特にディープアクティブラーニングに関して学ぶことができ良かった。「主体的・対話的であれば深い学びになるか？」や、「グループワークの工夫」など、もっと深く考えて実践しなければならないと感じた。同時に学びのスタートは、子供が「求める」ことだと考える。主体的・対話的に学ぶことができるよう興味をひく教材や課題を持って子供と勝負し、まずはひとりでじっくり考える時間をとり、その上で対話を求めるようであればグループワークを取り入れるなど、子供の実態をふまえ、子供のニーズにあわせて学びの旬を促えた手立てを考えて行かなければならないと思った。子供が全てで、全ては子供発であるのが良いと思う。	学生
9	ディープ・アクティブラーニングの考え方と具体例を知ることができたこと。自分の取り組みに活かせそうなヒントを得ることができたこと。	教員
10	新指導要領を踏まえたALの実態や方向性がよくわかりました。現場の実践も見られてよかった。	学生
11	「実践力」育成の方法を共通する内容もあり、また、批判的な視点も考える機会にもなり参考になった。	教員
12	八頭高校の例	教員
13	実践例の紹介が興味深かった。	教員
14	あらためて概念整理ができた。	教員
15	自分の考えていたアクティブ・ラーニングとの共通点、相違点を比較、検討することができた。	学生
16	グループワークへの関与の仕方、具体的に示して頂いた。あの中の一つを実施しているので参考になった。	教員
17	大学院生に学んでもらいたかったことが、コンパクトにまとめられたようなlectureであり、うちのゼミ生にも（M2は振り返り、意味づけとして）参加を促せば良かったと思いました。	教員
18	授業実践例がわかりやすかったです。	教員
19	ALについて、改めて考えることができ、とても参考になりました。	学生
20	内容が具体的で、授業に活かせるものであった。	教員
21	「深い理解」の先にあるものは何か、見え方、考え方の先にあるものは何か、そういう課題について深く課題意識を持たせていただきました。ありがとうございました。大変分かりやすく、刺激的な御講演だったと思います。	教員

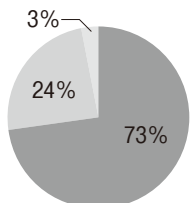
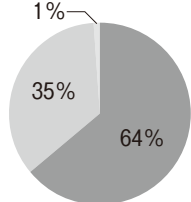
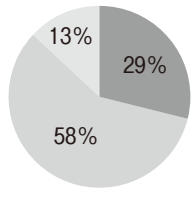
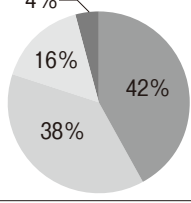
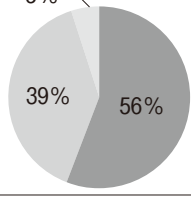
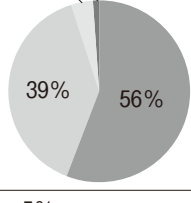
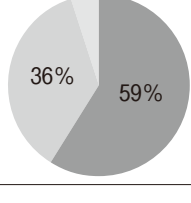
No.	受講して良かった点を、具体的に記入	職種
22	アクティブ・ラーニングを方法論として扱う著書に疑問を感じていたので、今回アクティブ・ラーニングという言葉が指導要領案からなくなったことをお聞きして個人的にはよかったです。主体的・対話的な学びの過程を子どもたちと作っていくプロセスで、自分の課題は「評価」にあるので、それについてもお聞きしたかったです。	学生
23	講義型授業でも頭の中はアクティブであることは多くあるという印象をもって、「活動=AL」のような風潮に疑問をもっていました。講義であっても「本質的な問い」を投げかけて、生徒と一緒に考えて行ける授業をつくりたいと思いました。	学生
24	具体的な事例を示してくださったおかげで、ALをどのように実践していくとよいか分かりよかったです。AL型授業はその学級ごとに合う、合わないがあり、その学級に合ったAL授業をしなければならないということを再確認した。深い学びをするためには、どうすればよいかをより探っていきたいと感じた。	学生
25	アクティブ・ラーニングの時代背景がよくわかった。ビデオクリップによる実践事例が紹介され、工夫した取り組みの数々を知ることができた。	学生
26	アクティブ・ラーニングという言葉は有名だけど、実際にどのようなものなのかを理解していなかったが、今回の話を聞いてなんとなく分かったような気がする。対話的な学びと深い学びがイコールじゃないと言われて、大学の授業をふりかえるとたしかにそうだなーと思った。現場に出た時に意識したいと思った。	学生
27	アクティブ・ラーニングという言葉が1人歩きしている感じをずっと受けており、各々とらえ方も違うことから、恐怖心に近いものも感じていた。しかし、今日のご講義はすごく分かりやすく、一つ一つの言葉の意味や背景がとてよく分かりました。ぜひ現場で実践している教員全員に聞いてほしいと思った。	学生
28	近般最も話題による核心的な内容について大変分かりやすく、事例も交えて説明していただいた。最速、実践に役立てたいと刺激を受けた。	学生
29	自分はどのような教師をめざすのかについて深く考えることができた。知識のみの重視ではなく、しっかりと判断できる子どもを育てなければ、今後ますます社会がきびしい状況になる。方向性について確信のようなものがえられてよかったと思う。ありがとうございました。	学生
30	「21世紀を生きぬく能力」との兼ね合いを含め、小中高校、及び大学の授業に教える（伝える）ものは何かを思い浮かべながら講演をお聞きしました。オープンエンドで終わってない（終わった方がよい）授業においてこそ、アクティブ・ディープラーニングの可能性も感じた。	教員
31	自分の授業の進め方を工夫するヒントとなった。	教員
32	小・中・高別の具体例を知ることができたこと。	教員
33	前回は大学で、今回は初等・中等と明確に取り組みが分けられていたのは良かったと思う。参加した学生の方が教員よりも充実して学べて結果的に大学としての教育の質は上がる形になった？	教員
34	ディープ・アクティブ・ラーニングの実践例を知ったこと。この講演をパッシブにしっかり受けたから、これからアクティブにできる（ほっとかれても自然にやる）。基本的に生徒・学生はアクティブに学ぶが、それをやめさせるのが授業の意味・意義では？ただし、あらためて教えることの本質はパッシブ・ラーニングだとも思った。	教員
35	アクティブ・ラーニング（ディープ・アクティブ・ラーニング）についての現状や実践例を知ることができてよかった。現場に戻る者としてたくさんのヒントを得ることができ有意義だった。	学生
36	背景や具体例を分かりやすく紹介していただき、大変良かったです。	職員
37	実践を示していただいた所。	教員
38	一般的で基本的な枠組に基づいた学習活動観からアクティブ・ラーニングについて位置づけがあり、わかりやすかった。紹介された事例がわかりやすくアクティブ・ラーニングの基本的考え方やあり方によく対応していた。私はまとめてゲームの学習に興味をもちました。	教員
39	自分の考えを整理する機会になります。	教員
40	どの内容を重視し、何を習得させるかというような視点が大切だと理解できました。	学生

No.	受講して良かった点を、具体的に記入	職種
41	ディープ・アクティブ・ラーニングと修論テーマ（論証指導：反論反駁指導によって批判的思考態度への影響）にかかわりがあることが分かりました。指導案を作る際に「知識の構築」を意識しようと思います。てこの授業を目指す理由。英語科なので出来るだけ多くの対話（一人あたりの会話時間）と自分（グループ）で考えだした production との共有（発表）を大切にしたいからです。	学生
42	学びの3つの軸という考え方が大変参考になった。	学生
43	現状と課題について知ることができた。	教員
44	“深い理解”の定義がしっかりなされていて考えやすかった。主体的・対話的な学びが無くても、深い学びが起こりうるのだろうか？とも思います。	学生
45	「主体的・対話的で深い学び」というキーワードを対象世界との関係をベースに自己や他者との関係と捉え直すと、とても分かりやすいし、イメージがわきやすいと思いました。また深い関与や深い理解の特徴のお話は非常に参考になりました。	学生
46	アクティブ・ラーニングとは何か、アクティブ・ラーニングのメリット、課題の議論がないまま、大学でも取り入れるよう指示があり、形骸化していた。その部分（メリット、課題、今後）の理解ができた。質問、東大生の中にもA I型の学習で合格する人もいたのでは。	教員
47	現場での実践について再考することができた。	学生
48	小・中の教育現場に生かせる内容であったと思う。	学生
49	ホットな話題で著名な先生のお話を聞くことができたこと。	学生
50	アクティブ・ラーニングから主体的・対話的で深い学びということがよく分かった。	学生
51	具体的な授業例を用いている点	教員
52	本質的な考え方について実践的な授業の具体例をもとに解説して頂いたところ、2つの示して頂いた授業のうち、是非2つ目のようにやってみたく思っている。ダンスを専門としている。頭も内的な活動と外的な活動があるが、からだも外的なパフォーマンスだけでなく、内的な学びがあるので、非常に興味深かった。	教員

No.	改善すべき点や取り上げて欲しいテーマを具体的に記入	職種
1	教員向けという形の広報ではなく、ぜひ多くの学生にも出られる広報をしていただきたい。	学生
2	多様な考え、意見を知るために講師は変えてほしい。	教員
3	小・中・高の話もあるため、もっと学生に参加を促して、(宣伝OR授業の一貫としてなど)参加させていいと思った。	学生
4	子どもの姿をビデオで紹介しながら、実践報告などがあると、学生的にはおもしろいと思います。	学生
5	理屈としてどうかという話よりも、具体的に使えるレベルで話をして欲しい。現場でアクティブラーニングを実践している人から話をしてもらった方がよいのではないかな。	教員
6	大学全体での態勢づくり	教員
7	TA・TSへの参加により成果を見込むのであれば、実施時期はもう少し早いほうが良いと思います。(難しいとは思いますが)	教員
8	中学校の国語教員なのですが、例えば読解ならば、時を忘れて読みひたるという姿こそがアクティブ・ラーナーだと思っています。最初はそうでなくとも、徐々に非構成的になっていくことを憧れます。ただし、時数や指導内容という制約もあるので、そこが難しいものだと思います。学校支援フィールドワークでも、先生方が気にしているのはそこでした。そこをクリアしてやるのが課題です。	学生
9	今回は初心者向けだったかと思います。昨年から二度目なので、内容的には了解していたことでした。ただ、院生もいたようなので、多様なニーズにあわせるのは難しいですね。	教員
10	特になし。(なお、本学でアクティブ・ラーニングを使い大学改革を進めていって良いのか?検討した方がよいのではないかな?)	教員
11	2月末は紀要の作成と重なって厳しい。開催時期を検討してください。	教員
12	アンケート結果の報告は短めにするか、メール配信で良いのではないかなと思う。大学のポータルサイトに案内を出したほうが良い。パソコン設定は事前に準備して、万全の体制で臨んでもらいたい。	学生
13	教科横断的な内容とアクティブ・ラーニングのかかわりについて、今後研究を進めていきたいと考えています。	教員
14	深い学びの「深さ」の基準は、アカデミックベースによるものなので、手法としては主体性・対話性を重視しつつ、授業の司会の中で議論を方向付ける場面で、「深さ」を志向させる点、その力量が不可欠であるので、教員のモデレートする力量について、議論をとり上げて頂きたい。	教員
15	さらに多くの具体例を知りたい。	教員
16	FDは大学の教育改革と連動すべきものなので、それらと有機的につなげてほしい。しつこくALをテーマとしつづけるのは良いと思うが、その方法やあり方をFD委員会は考えているのかは疑問が残る。やらなきゃいけないから研修会をする、調査をする、アンケートをする、という形でなけなしの予算を使うのは、そろそろやめるべきだと思う。	教員
17	アクティブ・ラーニングとパッシブ・ラーニングそれぞれについて、エビデンスを用いての講演を聞いてみたい。(ディープ)アクティブ・ラーニングを行うことは正しいことという前提の話しか聞けず、両方を重視する先生、あるいはアクティブ・ラーニングを否定する先生の話も聞きたい。	教員
18	個別具体的事例と理論やその背景にある学級運営上の視点を取り入れていただきたい。	学生
19	パフォーマンスの評価についてのご講演もお願いしたい。	教員
20	小学校・中学校でのアクティブ・ラーニングやポスト近代型の学習観に基づく大学授業との連動が必要と感じました。同じ課題を抱えているが自明化を活動化することは難しいことが多いと感じます。	教員
21	深い学びが重要だということが良く分かった。ジグソーやワールドカフェといった学習形態を工夫して深い学びに行くよりも、本質的な教材研究や課題の提示、学習者同士の対話の質によって、深いアプローチになるように頑張りたい。(現場にいると忙しいので、教材研究をする時間がほしい)	学生

No.	改善すべき点や取り上げて欲しいテーマを具体的に記入	職種
22	中・高免許取得者用（特に高免）に、中高生にはどのようなALが可能になるのか、限られた時間の中で“深い理解”をさせるためにはどのように工夫すれば良いのだろうか。理論と実践を知りたいです。	学生
23	昨年も同じでしたが、講演会に参加する先生方、学生の集合が遅いと思いました。（30分前に誰もいない。講師の先生の方が先に会場入りして参加者を待っている）改善できると良いと思います。	学生
24	是非来年も松下先生のお話を聞きたいと思った。昨年、非常に良かったので、今年度は絶対参加しようと思っていた。自身の授業のみならず研究面でもヒントになることがあり、とても良かった。	教員

開催日 平成29年2月22日(水)
 会場 上越教育大学 講義棟301教室
 回答者総数 102

No.	アンケート項目	結果
1	本研修について、講師の言動は学習意欲を高めた	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
2	本研修について、講師の用意した教材はわかりやすかった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
3	本研修について、研修は全体的に満足できるものだった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
4	本研修は、自分に必要な知識やスキルを身に付けることができた	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
5	本研修の実施時期は適切だった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
6	本研修の対象者は適切だった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない
7	本研修の、研修内容の構成等は適切だった	 <ul style="list-style-type: none"> ■ ④そう思う ■ ③どちらかといえばそう思う ■ ②どちらかといえばそう思わない ■ ①そう思わない

資料8 学生による授業評価アンケート調査集計結果〔平成25～27年度〕

学生による授業評価アンケート調査集計結果(平成25～27年度)

○学校教育学部

平成25年度：アンケート回答数：14,677件／受講登録数：20,844件＝回収率：70.4%
 平成26年度：アンケート回答数：13,905件／受講登録数：19,000件＝回収率：73.2%
 平成27年度：アンケート回答数：14,649件／受講登録数：19,063件＝回収率：76.8%

アンケート事項	評価														
	はい				いいえ				無回答						
	前	後	計	⑤	前	後	計	①	前	後	計	計			
年度	前	後	計	前	後	計	前	後	計	前	後	計	前	後	計
25	3,418	3,862	7,280	47.4%	51.7%	49.6%	3,057	2,758	5,815	42.4%	37.0%	39.6%	739	843	1,582
26	3,585	3,930	7,515	50.6%	57.7%	54.0%	2,982	2,313	5,295	42.1%	33.9%	38.1%	524	571	1,095
27	3,873	4,354	8,227	52.9%	59.4%	56.2%	2,956	2,500	5,456	40.4%	34.1%	37.2%	496	470	966
25	2,701	3,814	6,515	37.4%	51.1%	44.4%	2,961	2,450	5,411	41.0%	32.8%	36.9%	76	63	139
26	3,007	3,365	6,372	42.4%	49.4%	45.8%	2,883	2,377	5,260	40.7%	34.9%	37.8%	42	34	76
27	3,347	3,710	7,057	45.7%	50.7%	48.2%	2,846	2,635	5,481	38.9%	36.0%	37.4%	25	32	57
25	1,920	3,025	4,945	26.6%	40.5%	33.7%	2,433	2,227	4,660	33.7%	29.8%	31.8%	290	289	579
26	2,305	2,923	5,228	32.5%	42.9%	37.6%	2,457	2,146	4,603	34.6%	31.5%	33.1%	185	153	338
27	2,575	3,184	5,759	35.2%	43.5%	39.3%	2,549	2,349	4,898	34.8%	32.1%	33.4%	165	150	315
25	2,680	3,863	6,543	37.1%	51.8%	44.6%	3,129	2,582	5,711	43.4%	34.6%	38.9%	39	27	66
26	3,041	3,452	6,493	42.9%	50.7%	46.7%	2,894	2,379	5,263	40.7%	34.9%	37.8%	26	32	58
27	3,400	3,851	7,251	46.4%	52.6%	49.5%	2,941	2,506	5,447	40.2%	34.2%	37.2%	20	28	48

○はじめに、あなた自身の取り組みについて

① あなたは、この授業を受講する際に、シラバスを確認していますか。
 旧⑤

② あなたは、教員になる(である)ことを意識して、この授業に意欲的に取り組みましたか。
 注 教員を志望しない場合は、マーク不要です。
 旧①④

③ あなたは、この授業内容を発展させるため、授業中以外の時間に努力をしましたか。
 旧②

④ この授業で、この分野における新しい知識、手法、技能等を修得することができましたか。
 旧③

○授業の内容や方法について		2,941	4,055	6,996	2,847	2,360	5,207	1,161	853	2,014	193	135	328	50	38	88	22	22	44	
25	⑤ この授業の目標や内容は、明確でしたか。 旧⑩⑪	40.8%	54.3%	47.7%	39.5%	31.6%	35.5%	16.1%	11.4%	13.7%	2.7%	1.8%	2.2%	0.7%	0.5%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	
		3,250	3,530	6,780	2,606	2,224	4,830	1,040	838	1,878	135	152	287	42	52	94	18	18	36	36
		45.8%	51.8%	48.8%	36.8%	32.6%	34.7%	14.7%	12.3%	13.5%	1.9%	2.2%	2.1%	0.6%	0.8%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
27	⑥ 授業での教え方や話し方は、わかりやすいものになっていましたか。 旧⑥⑨	3,594	3,842	7,436	2,621	2,444	5,065	952	833	1,785	101	129	230	40	59	99	17	17	34	34
		49.1%	52.5%	50.8%	35.8%	33.4%	34.6%	13.0%	11.4%	12.2%	1.4%	1.8%	1.6%	0.5%	0.8%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
		2,814	3,780	6,594	2,751	2,344	5,095	1,273	1,040	2,313	265	206	471	87	56	143	24	37	61	61
25	⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。 旧⑦	39.0%	50.6%	44.9%	38.1%	31.4%	34.7%	17.6%	13.9%	15.8%	3.7%	2.8%	3.2%	1.2%	0.8%	1.0%	0.3%	0.5%	0.4%	
		3,063	3,295	6,358	2,497	2,258	4,755	1,231	977	2,208	218	171	389	64	77	141	18	36	54	54
		43.2%	48.4%	45.7%	35.2%	33.1%	34.2%	17.4%	14.3%	15.9%	3.1%	2.5%	2.8%	0.9%	1.1%	1.0%	0.3%	0.5%	0.4%	0.4%
27	⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものになっていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。 旧⑧	3,452	3,661	7,113	2,603	2,405	5,008	1,071	964	2,035	140	179	319	37	87	124	22	28	50	50
		47.1%	50.0%	48.6%	35.5%	32.8%	34.2%	14.6%	13.2%	13.9%	1.9%	2.4%	2.2%	0.5%	1.2%	0.8%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%
		2,724	3,394	6,118	2,640	2,344	4,984	1,332	1,056	2,388	164	128	292	32	58	90	322	483	805	805
25	⑨ この授業の難易度は、適切でしたか。 旧⑨	37.8%	45.5%	41.7%	36.6%	31.4%	34.0%	18.5%	14.1%	16.3%	2.3%	1.7%	2.0%	0.4%	0.8%	0.6%	4.5%	6.5%	5.5%	5.5%
		3,005	3,091	6,096	2,497	2,180	4,677	1,176	1,043	2,219	138	131	269	30	50	80	245	319	564	564
		42.4%	45.4%	43.8%	35.2%	32.0%	33.6%	16.6%	15.3%	16.0%	1.9%	1.9%	1.9%	0.4%	0.7%	0.6%	3.5%	4.7%	4.1%	4.1%
26	⑩ この授業は、興味深い授業内容でしたか。 旧⑩	3,389	3,493	6,882	2,516	2,332	4,848	1,006	1,020	2,026	116	128	244	29	66	95	269	285	554	554
		46.3%	47.7%	47.0%	34.3%	31.8%	33.1%	13.7%	13.9%	13.8%	1.6%	1.7%	1.7%	0.4%	0.9%	0.6%	3.7%	3.9%	3.8%	3.8%
		2,505	3,195	5,700	2,625	2,236	4,861	1,465	1,230	2,895	227	178	405	59	72	131	333	552	885	885
26	⑪ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑪	34.7%	42.8%	38.8%	36.4%	30.0%	33.1%	20.3%	16.5%	18.4%	3.1%	2.4%	2.8%	0.9%	1.0%	0.9%	4.6%	7.4%	6.0%	6.0%
		2,807	2,948	5,755	2,475	2,153	4,628	1,302	1,105	2,407	203	179	382	47	57	104	257	372	629	629
		39.6%	43.3%	41.4%	34.9%	31.6%	33.3%	18.4%	16.2%	17.3%	2.9%	2.6%	2.7%	0.7%	0.8%	0.7%	3.6%	5.5%	4.5%	4.5%
27	⑫ この授業は、興味深い授業内容でしたか。 旧⑫	43.8%	45.6%	44.7%	34.2%	32.0%	33.1%	15.5%	14.9%	15.2%	2.0%	2.1%	2.0%	0.6%	1.0%	0.8%	4.0%	4.5%	4.2%	4.2%
		2,605	3,600	6,205	2,855	2,471	5,326	1,450	1,149	2,599	217	167	384	70	49	119	17	27	44	44
		36.1%	48.2%	42.3%	39.6%	33.1%	36.3%	20.1%	15.4%	17.7%	3.0%	2.2%	2.6%	1.0%	0.7%	0.8%	0.2%	0.4%	0.3%	0.3%
25	⑬ この授業の難易度は、適切でしたか。 旧⑬	2,985	3,201	6,186	2,584	2,370	4,954	1,231	1,020	2,251	200	152	352	65	44	109	26	27	53	53
		42.1%	47.0%	44.5%	36.4%	34.8%	35.6%	17.4%	15.0%	16.2%	2.8%	2.2%	2.5%	0.9%	0.6%	0.8%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
		3,345	3,609	6,954	2,631	2,436	5,067	1,142	1,047	2,189	150	154	304	36	57	93	21	21	42	42
26	⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。 旧⑭	45.7%	49.3%	47.5%	35.9%	33.3%	34.6%	15.6%	14.3%	14.9%	2.0%	2.1%	2.1%	0.5%	0.8%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
		3,180	4,232	7,412	2,585	2,124	4,709	1,152	913	2,065	227	134	361	56	42	98	14	18	32	32
		44.1%	56.7%	50.5%	35.8%	28.5%	32.1%	16.0%	12.2%	14.1%	3.1%	1.8%	2.5%	0.8%	0.6%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
27	⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑮	3,448	3,758	7,206	2,331	1,986	4,317	1,070	869	1,939	162	118	280	59	58	117	21	25	46	46
		48.6%	55.2%	51.8%	32.9%	29.1%	31.0%	15.1%	12.8%	13.9%	2.3%	1.7%	2.0%	0.8%	0.9%	0.8%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%
		3,765	3,996	7,761	2,411	2,245	4,656	977	880	1,857	117	130	247	40	56	96	15	17	32	32
25	⑯ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑯	51.4%	54.6%	53.0%	32.9%	30.7%	31.8%	13.3%	12.0%	12.7%	1.6%	1.8%	1.7%	0.5%	0.8%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
		3,104	4,119	7,223	2,678	2,226	4,904	1,162	910	2,072	198	144	342	59	46	105	13	18	31	31
		43.0%	55.2%	49.2%	37.1%	29.8%	33.4%	16.1%	12.2%	14.1%	2.7%	1.9%	2.3%	0.9%	0.6%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
26	⑰ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑰	3,321	3,578	6,899	2,483	2,125	4,608	1,066	907	1,973	155	124	279	45	58	103	21	22	43	43
		46.8%	52.5%	49.6%	35.0%	31.2%	33.1%	15.0%	13.3%	14.2%	2.2%	1.8%	2.0%	0.6%	0.9%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
		3,736	3,915	7,651	2,463	2,306	4,769	953	871	1,824	115	148	263	38	62	100	20	22	42	42
27	注)旧○数字は、平成24年度までの質問項目番号	51.0%	53.5%	52.2%	33.6%	31.5%	32.6%	13.0%	11.9%	12.5%	1.6%	2.0%	1.8%	0.5%	0.8%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
		2,736	3,015	5,226	1,863	1,554	3,266	1,066	871	1,824	115	148	263	38	62	100	20	22	42	42
		46.8%	52.5%	49.6%	35.0%	31.2%	33.1%	15.0%	13.3%	14.2%	2.2%	1.8%	2.0%	0.6%	0.9%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%

学生による授業評価アンケート調査集計結果(平成25～27年度)

○大学院 学校教育研究科

平成25年度: アンケート回答数: 3,767件/受講登録数: 4,941件=回収率: 76.2% (専門職学位課程の臨床共通科目及び学校支援プログラム/外科目を除く。)
 平成26年度: アンケート回答数: 3,169件/受講登録数: 3,995件=回収率: 79.3% (専門職学位課程の臨床共通科目及び学校支援プログラム/外科目を除く。)
 平成27年度: アンケート回答数: 3,205件/受講登録数: 3,982件=回収率: 80.5% (専門職学位課程の臨床共通科目及び学校支援プログラム/外科目を除く。)

アンケート事項	評価																	
	はい						いいえ											
	⑤		④		③		②		①		計							
年度	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	無	回	答			
○はじめに、あなた自身の取り組みについて	25	1,583	1,262	2,845						351	235	586	138	198	336			
		76.4%	74.5%	75.5%						16.9%	13.9%	15.6%	6.7%	11.7%	8.9%			
	26	1,386	988	2,374						327	162	489	146	160	306			
① あなたは、この授業を受講する際に、シラバスを確認していますか。 ⑤		74.6%	75.4%	74.9%						17.6%	12.4%	15.4%	7.9%	12.2%	9.7%			
	27	1,438	994	2,432						338	198	536	132	105	237			
		75.4%	76.6%	75.9%						17.7%	15.3%	16.7%	6.9%	8.1%	7.4%			
② あなたは、教員になる(である)ことを意識して、この授業に意欲的に取り組みましたか。 注)教員を志望しない場合は、マーク不要です。 ①④	25	1,285	1,098	2,383	409	305	714	121	78	199	21	12	33	221	182	403		
		62.0%	64.8%	63.3%	19.7%	18.0%	19.0%	5.8%	4.6%	5.3%	1.0%	0.7%	0.9%	0.7%	10.7%	10.7%		
	26	1,155	835	1,990	418	270	688	83	57	140	9	5	14	7	187	140	327	
	62.1%	63.7%	62.8%	22.5%	20.6%	21.7%	4.5%	4.4%	4.4%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	10.1%	10.7%	10.3%		
27	1,173	806	1,979	381	256	637	102	52	154	9	7	16	7	236	168	404		
	61.5%	62.1%	61.7%	20.0%	19.7%	19.9%	5.3%	4.0%	4.8%	0.5%	0.5%	0.5%	0.4%	12.4%	13.0%	12.6%		
③ あなたは、この授業内容を発展させるため、授業中以外の時間に努力をしましたか。 ②	25	898	837	1,735	660	491	1,151	388	263	651	68	60	128	58	96	6		
		43.3%	49.4%	46.1%	31.9%	29.0%	30.6%	18.7%	15.5%	17.3%	3.3%	3.5%	3.4%	2.8%	2.2%	2.5%	0.0%	
	26	825	654	1,479	597	388	985	349	209	558	53	33	86	32	54	3	4	
	44.4%	49.9%	46.7%	32.1%	29.6%	31.1%	18.8%	16.0%	17.6%	2.9%	2.5%	2.7%	1.7%	1.7%	0.2%	0.3%	0.2%	
27	859	675	1,534	573	351	924	387	205	592	60	37	97	28	18	46	1	11	
	45.0%	52.0%	47.9%	30.0%	27.1%	28.8%	20.3%	15.8%	18.5%	3.1%	2.9%	3.0%	1.5%	1.4%	1.4%	0.1%	0.8%	
④ この授業で、この分野における新しい知識、手法、技能等を修得することができましたか。 ③	25	1,300	1,141	2,441	596	419	1,015	144	111	255	20	15	35	8	13	4	4	
		62.7%	67.3%	64.8%	28.8%	24.7%	26.9%	6.9%	6.5%	6.8%	1.0%	0.9%	0.9%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%
	26	1,204	865	2,069	536	364	900	102	70	172	6	5	11	7	8	4	5	
	64.8%	66.0%	65.3%	28.8%	27.8%	28.4%	5.5%	5.3%	5.4%	0.3%	0.4%	0.3%	0.4%	0.1%	0.3%	0.2%	0.4%	
27	1,248	859	2,107	545	354	899	96	69	165	14	3	17	2	3	3	11	14	
	65.4%	66.2%	65.7%	28.6%	27.3%	28.0%	5.0%	5.3%	5.1%	0.7%	0.2%	0.5%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.8%	

○授業の内容や方法について		1,385	1,210	2,595	508	343	851	143	114	257	24	17	41	10	5	15	2	6	8
25	⑤ この授業の目標や内容は、明確でしたか。 旧⑩⑪	66.8%	71.4%	68.9%	24.5%	20.2%	22.6%	6.9%	6.7%	6.8%	1.2%	1.0%	1.1%	0.5%	0.3%	0.4%	0.1%	0.4%	0.2%
		1,258	889	2,147	489	332	801	104	72	176	21	10	31	7	2	9	0	5	5
		67.9%	67.9%	67.8%	25.2%	25.3%	25.3%	5.6%	5.5%	5.6%	1.1%	0.8%	1.0%	0.4%	0.2%	0.3%	0.0%	0.4%	0.2%
27	⑥ 授業での教え方や話し方は、わかりやすいものになっていましたか。 旧⑥⑨	67.3%	70.0%	68.4%	25.2%	23.4%	24.5%	6.1%	5.6%	5.9%	1.0%	0.5%	0.8%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
		1,305	1,143	2,448	540	401	941	184	124	308	34	20	54	5	4	9	4	3	7
		63.0%	67.4%	65.0%	26.1%	23.7%	25.0%	8.9%	7.3%	8.2%	1.6%	1.2%	1.4%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
26	⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 法ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。 旧⑦	64.1%	65.6%	64.7%	27.5%	24.9%	26.4%	6.6%	7.5%	7.0%	1.6%	1.2%	1.5%	0.2%	0.3%	0.2%	0.0%	0.5%	0.2%
		1,230	831	2,061	507	319	826	146	119	265	19	18	37	4	2	6	2	8	10
		64.5%	64.1%	64.3%	26.6%	24.6%	25.8%	7.7%	9.2%	8.3%	1.0%	1.4%	1.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.6%	0.3%
25	⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものどなっていましたか。 法ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。 旧⑧	61.0%	63.2%	62.0%	25.0%	22.3%	23.8%	7.8%	7.6%	7.7%	1.1%	0.7%	0.9%	0.4%	0.0%	0.2%	4.7%	6.3%	5.4%
		1,176	803	1,979	467	324	791	107	91	198	17	8	25	0	4	4	92	80	172
		63.3%	61.3%	62.4%	25.1%	24.7%	25.0%	5.8%	6.9%	6.2%	0.9%	0.6%	0.8%	0.0%	0.3%	0.1%	4.9%	6.1%	5.4%
27	⑨ この授業の難易度は、適切でしたか。 旧⑬	1,178	793	1,971	492	300	792	117	81	198	14	10	24	5	1	6	102	112	214
		61.7%	61.1%	61.5%	25.8%	23.1%	24.7%	6.1%	6.2%	6.2%	0.7%	0.8%	0.7%	0.3%	0.1%	0.2%	5.3%	8.6%	6.7%
		1,127	971	2,098	518	382	900	214	147	361	39	12	51	14	2	16	160	181	341
25	⑩ この授業は、興味深い授業内容でしたか。 旧⑭	54.4%	57.3%	55.7%	25.0%	22.5%	23.9%	10.3%	8.7%	9.6%	1.9%	0.7%	1.4%	0.7%	0.1%	0.4%	7.7%	10.7%	9.1%
		1,074	769	1,843	485	303	788	145	101	246	20	16	36	3	4	7	132	117	249
		57.8%	58.7%	58.2%	26.1%	23.1%	24.9%	7.8%	7.7%	7.8%	1.1%	1.2%	1.1%	0.2%	0.3%	0.2%	7.1%	8.9%	7.9%
27	⑪ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑮	56.7%	56.4%	56.6%	25.5%	24.1%	24.9%	8.6%	8.3%	8.5%	1.2%	0.9%	1.1%	0.3%	0.1%	0.2%	7.9%	10.1%	8.8%
		1,161	1,053	2,214	642	441	1,083	228	171	399	33	24	57	6	4	10	2	2	4
		56.0%	62.1%	58.8%	31.0%	26.0%	28.7%	11.0%	10.1%	10.6%	1.6%	1.4%	1.5%	0.3%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%
26	⑫ この授業の難易度は、適切でしたか。 旧⑯	1,073	823	1,896	561	332	893	193	129	322	27	18	45	5	3	8	0	5	5
		57.7%	62.8%	59.8%	30.2%	25.3%	28.2%	10.4%	9.8%	10.2%	1.5%	1.4%	1.4%	0.3%	0.2%	0.3%	0.0%	0.4%	0.2%
		1,102	811	1,913	575	349	924	184	113	297	36	18	54	8	3	11	3	3	6
27	⑬ この授業は、興味深い授業内容でしたか。 旧⑰	57.8%	62.5%	59.7%	30.1%	26.9%	28.8%	9.6%	8.7%	9.3%	1.9%	1.4%	1.7%	0.4%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%
		1,484	1,278	2,762	432	296	728	127	99	226	23	14	37	5	7	12	1	1	2
		71.6%	75.4%	73.3%	20.8%	17.5%	19.3%	6.1%	5.8%	6.0%	1.1%	0.8%	1.0%	0.2%	0.4%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%
26	⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。 旧⑱	1,394	978	2,372	350	237	587	95	78	173	12	8	20	5	4	9	3	5	8
		75.0%	74.7%	74.9%	18.8%	18.1%	18.5%	5.1%	6.0%	5.5%	0.6%	0.6%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.4%	0.3%
		1,417	985	2,402	386	243	629	87	62	149	10	5	15	6	0	6	2	2	4
27	⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑲	74.3%	75.9%	74.9%	20.2%	18.7%	19.6%	4.6%	4.8%	4.6%	0.5%	0.4%	0.5%	0.3%	0.0%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%
		1,400	1,209	2,609	489	347	836	148	113	261	23	17	40	8	6	14	4	3	7
		67.6%	71.3%	69.3%	23.6%	20.5%	22.2%	7.1%	6.7%	6.9%	1.1%	1.0%	1.1%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%	0.2%
26	⑯ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑳	1,325	920	2,245	419	283	702	85	84	169	20	11	31	8	7	15	2	5	7
		71.3%	70.2%	70.8%	22.5%	21.6%	22.2%	4.6%	6.4%	5.3%	1.1%	0.8%	1.0%	0.4%	0.5%	0.5%	0.1%	0.4%	0.2%
		1,339	926	2,265	432	280	712	118	73	191	13	10	23	3	3	6	3	5	8
27	⑰ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧㉑	70.2%	71.4%	70.7%	22.6%	21.6%	22.2%	6.2%	5.6%	6.0%	0.7%	0.8%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%
		1,339	926	2,265	432	280	712	118	73	191	13	10	23	3	3	6	3	5	8
		70.2%	71.4%	70.7%	22.6%	21.6%	22.2%	6.2%	5.6%	6.0%	0.7%	0.8%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%

注)旧○数字は、平成24年度までの質問項目番号

「あとがき」にかえて

教職カリキュラム質保証検討委員会副委員長

上越市立教育センター 教育研究部長 藤本 孝昭

上越教育大学が平成28年度文部科学省委託事業「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の指定を受け、「カリキュラム企画運営会議を中核としたP D C Aのサイクルによる教職カリキュラム・マネジメントシステムの再構築」をプロジェクトテーマに教職カリキュラム質保証検討委員会が立ち上げられた。その折、教育研修の実施や教員を受け入れる立場から教育行政及び教育現場から学外委員を置くことになった。その結果、上越市教育委員会の藤本孝昭、上越市立大潟町小学校の長谷川敬子が学外委員として委嘱を受け、本事業に関わり意見を求められることになった。そこで、この1年間、本プロジェクトに参画し自らの実践を含めて見聞した知見を申し述べ「あとがき」にかえさせていただく。

上越市立教育センターでは、学校が最適な状況としてのカリキュラムづくりに取り組む必要があり、教職員には、柔軟で弾力的なカリキュラム・マネジメント能力が求められているとの考えから、平成19年度から「上越カリキュラム」の開発研究を進めてきた。そのシステムは、カリキュラム研究、カリキュラムモデルの開発、カリキュラム研修の3本の柱を中心に上越カリキュラム開発研究推進委員会がその任に当たっている。

その特色の一つは、学校づくりの理念や戦略・方策から授業実践に至る過程をできる限り「可視化」し、工夫・改善の気運を高め、子どものよりよい成長、よりよい教育活動を目指した「攻めの姿勢」「協働の姿勢」を促すことを目的としてきたことである。具体的には、視覚的カリキュラム表という学年縦断的・教科横断的にカリキュラムを俯瞰し特色ある学校教育の教育課程の全体像が見える化したツールを用いて教育課程を編成・実施、評価することが挙げられる。また、平成24年度から上越市内小中学校すべてに導入したコミュニティースクールという仕組みを活かしてカリキュラム・マネジメントを進めるとともに、学校だけでなく学校運営協議会における熟議を取り入れ、開かれた学校づくりが推進されるようにしていることである。そのためのツールとして、視覚的カリキュラム表が有効であることも多くの学校の実践から報告されている。さらには、教職員の資質・能力向上のため、授業名人の示範授業等の授業力向上研修、スクールマネジメント研修等の学校力向上研修など60講座を開設し教育の質の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントを進めてきた。

時同じくして、上越教育大学において、本プロジェクトが立ち上がった。そして、FD委員会が過去に実施した学生の授業評価結果分析・考察における質の高い授業の抽出、先進的取組を行っている大学等への訪問による聞き取り調査、アクティブ・ラーニングをはじめとした授業実践に活かせるFD研修会の実施などを通して進められてきた研究成果が本報告書に述べられている。これらの成果を生かすのは当然のことであるが、是非お願いしたいのは、借り物ではない上越教育大学ならではの特色や独自性が溢れたカリキュラムづくり、そして全学教員によってP D C Aが効率的に回され、協働性溢れ、質の高いカリキュラム・マネジメントが推進されることを願い、あとがきにかえさせていただく。



マナーブ・デ・ジョーキョー先生

※上越教育大学の校舎をモチーフとしたキャラクターです。
未来に向かって飛躍するためのマントをなびかせ、顔の
大学名を、その志のように光り輝かせています。

《文部科学省委託事業》平成28年度

総合的な教師力向上のための調査研究事業実施報告書
カリキュラム企画運営会議を中核としたP D C Aサイクルによる
教職カリキュラムマネジメントシステムの再構築

平成29年3月

発行 上越教育大学教職カリキュラム質保証検討委員会
新潟県上越市山屋敷町1番地

印刷 永田印刷株式会社
新潟県上越市高土町3丁目10番3号



〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地
<http://www.juen.ac.jp>